ラテックス

NBR系の輸出急増

医療手袋向け牽引　CRで代替需要も

アクリロニトリル・ブタジエン系（NBR）ラテックスの輸出が急増している。新型コロナの影響で主用途の一つである医療用手袋の需要が世界的に拡大しているためだ。需給はひっ迫し取引価格も右肩上がりに上昇している。その余波で代替品としてクロロプレンゴムのラテックス品（CRラテックス）への引き合いが強まっている。

貿易統計によると、NBRラテックス輸出は20年1～12月まで12カ月連続で前年同月を上回り、10月と12月は3倍以上の数量を記録した。

同製品は近年、天然ゴムを代替するかたちで医療用手袋向けに伸ばすなか、コロナ禍で特に年後半から需要の増加ペースが加速。原料ブタジエン高の影響もあるが、12月の輸出価格は夏場比5割以上高い1キログラム595円台を付けるなど市況も騰勢を強めている。価格上昇を背景に業界大手の日本ゼオンは20年10～12月期のラテックス部門の売上高が前期（7～9月）比13%増加した。

医療用手袋向けのうち特にPCR検査など検査時に医療従事者らが使う手袋向けが牽引しており、需要に供給が追い付かずひっ迫した状況となっている。日本ゼオンは現時点で増産する意思はないとする一方、海外メーカーは中国や東南アジアでの増産計画を打ち出している。そのためやがて現在の状況は解消することになるが、今後1年ほどはタイトな状況が続くとの見方が多い。

こうしたなか、NBRラテックスの需給ひっ迫を受け、CRラテックスで検査用手袋を代替生産する動きが活発化。CRラテックスは柔軟性付与の特性から医療用手袋向けで伸びてきたが、足元ではNBRラテックスより割安感が生まれていることもあり、検査用手袋向けのニーズが高まっている。日本からの輸出も昨年8月から5カ月連続で前年同月を上回り、9～11月は前年同月の1・8～2倍に急拡大した。

CRメーカー国内3社は、自動車部品向けなどのドライチップ品以上にラテックス品に注力する姿勢を鮮明にする。世界最大手のデンカは医療用、工業用を含めた手袋向けと接着剤向けの需要増に対応し、22年度ごろの完工予定で日米両拠点のラテックス品の総供給能力を現状の2・5～3倍に引き上げる。東ソーも医療用手袋向けの需要増を理由にデボトル増強を進めており、完了する今秋にはドライチップ品とラテックス品を合わせてCR生産能力は現状から1割近く増える。

新型コロナ多検体検査法を共同研究

東洋紡

東洋紡は北里研究所、椿本チエインと共同で、複数人分の検体をまとめて検査する「プール法」を採用した新型コロナウイルス全自動多検体検査法の確立に向けた研究を行う契約を1月29日に締結した。この共同研究は日本医療研究開発機構が公募した開発支援事業に採択された。3月末までの実装実験完了、6月の実用化を目指す。

肺アブセッサス症原因菌を簡便検査

カネカ、キット発売へ

カネカは難治性呼吸器感染症「肺アブセッサス症」の原因菌マイコバクテリウム・アブセッサス・コンプレックスを簡便に検査する技術を開発した。新技術を用いた検査キットを4月にも国内で発売し、23年に売上高10億円を目指す。将来は海外にも展開する。

水素2国間輸送実証事業を完了

千代田化工

千代田化工建設は、日本とブルネイの間で行われた世界初の水素サプライチェーン構築に向けた実証事業を完了した。10カ月間の供給実証でブルネイから日本へ総計100㌧超の水素を安全・安定的に輸送することに成功した。今後は20年代半ばにも準商用化レベルでの実用開始を目指す。

実証事業は15～20年度の6年間、同社と三菱商事、三井物産、日本郵船が参画する次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合（AHEAD）がNEDOの助成を受けて進めた。

水素はブルネイで天然ガスから製造し、現地でトルエンとの化学反応により生成する「スペラ水素」（メチルシクロヘキサン、MCH）に転換して日本へ輸送。日本でMCHから水素を取り出した後、トルエンは再びブルネイに輸送する。今回の実証事業で、一連の輸送ループが成立したことになる。千代田化工建設は実証事業で掲げた初期の目的を達成し、商業規模へのスケールアップが可能なことを確認するなど社会実装へ前進したと表明した。今後はスペラ水素技術を日本発の環境技術と位置づけ、国際間の水素サプライチェーン構築に関与しながら世界各国が目指すカーボンニュートラルに貢献する考え。

化学製品値上げ

PVAを25円以上

クラレ、世界で

クラレはポリビニルアルコール（PVA）とPVA系樹脂を4日出荷分から世界で値上げする。上げ幅は日本が1キログラム25円以上、アジア太平洋と北南米、中東、アフリカが0・25ドル以上、欧州が0・2ユーロ以上。

EVOHを20円

クラレはエチレン・ビニルアルコール共重合体（EVOH）と回収助剤、パージング材を22日出荷分から世界で値上げする。上げ幅は日本が1キログラム20円（アジア太平洋では0・2ドル）値上げする。

TPEを30円

住友化学

住友化学は熱可塑性エラストマー（TPE）を15日出荷分から1キログラム30円値上げする。

PEとPP10円以上

住友化学はポリエチレン（PE）とポリプロピレン（PP）を22日納入分から1キログラム10円以上値上げする。

ABSなど機能樹脂

デンカ、25円

デンカは機能樹脂を15日出荷分から1キログラム25円値上げする。対象は一般・耐薬・耐熱・透明ABS、AS、ABSコンパウンド（ガラス繊維強化、摺動、PCアロイなど）、ABS樹脂向け耐熱付与材「IP」、各種透明樹脂、SBC樹脂。

EG類を7円以上

三菱ケミカル

三菱ケミカルはエチレングリコール（EG）類を15日納入分から1キログラム7円以上値上げする。

オキソ系を15円

KHネオケム

KHネオケムはオキソ系製品を15日納入分から1キログラム15円値上げする。対象はオクタノール、イソノナノール、ブタノール、イソブタノール、デカノール、トリデカノール、オクチル酸、イソノナン酸、ブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド。

エアバッグ糸と基布

東洋紡、50円

東洋紡は自動車エアバッグ用のナイロン66原糸と基布を21日出荷分から1キログラム50円（原糸重量換算）値上げする。

PSを22円以上

東洋スチレン

東洋スチレンはポリスチレン（PS）を3月1日出荷分から1キログラム22円以上値上げする。対象は一般用（GP）、耐衝撃性（HI）、難燃、特殊の各グレード。

PVCを15円以上

カネカ

カネカは塩化ビニル樹脂（PVC）全品種を3月1日出荷分から1キログラム15円以上値上げする。

25ドル高の660ドル

2月ベンゼンACP

2月分のベンゼンのアジア契約価格（ACP）は前月比25ドル高の1㌧660ドルとなった。4カ月連続の上昇。誘導品市況は低迷しているが、原油価格の上昇に伴いベンゼンのスポット価格は強含んでいる。国内価格換算想定値は前月比3・3円高の1キログラム74・4円。

ABS樹脂事業営業利益18億円

JSR、10～12月

JSRのABS樹脂事業の収益が急回復した。自動車向けを中心とする需要回復が寄与し、ABS樹脂事業が大半を占める合成樹脂部門の20年10～12月期売上収益は7～9月期比37%増の225億円、コア営業利益は12倍の18億円と四半期ベースで19年10～12月期以来の10億円超となった。今後は「半導体不足による自動車減産の懸念やコロナウイルス感染再拡大による影響などのリスク要因を注視しながらも、10～12月期の需要環境が1～3月期も継続する」とみている。

4～9月の新型コロナウイルスによる自動車向け需要激減が響き、4～12月期の合成樹脂部門売上収益は前年同期比で24%減の551億円、コア営業利益は53%減の25億円にとどまった。ただ、21年3月期業績は昨年10月に発表した予想（売上収益7740億円、コア営業利益20億円）を達成する公算が大きい。

JSRのABS樹脂事業は、子会社のテクノUMGが担っている。同社は18年4月にテクノポリマー（JSR100%出資）とUMG ABS（宇部興産、三菱ケミカル各50%の出資）のABS樹脂部門売上収益は1041億円だった。そこから2年連続で売上収益、営業利益ともに落としたが、4月から始動する新中期経営計画で25年3月期に売上高、営業利益を19年3月期以上のレベルにする計画だ。特に海外での販売を伸ばし、海外売上高比率5割以上を目指す。

プラント保安管理3年計画で紙廃止

ランクセス

ランクセスは欧米のプラント65カ所を対象に今後3年間で保守管理、オペレーションの両分野のデジタル化を図る。具体的には年約40万件使用している紙のチェックリストを廃し、タブレット端末にかけて昨年のピーク時に比べ約3割下落するとみている。コンテナ船不足を背景に中国のMDIユーザーが製品の減産に入り、価格の先安観もあってMDIを買い控えている。

カセイソーダは豪州、インドネシア、インドでのアルミ精錬向け需要が回復し、輸出価格は昨年10月を底に上昇に転じたが、今年に入って再び下落している。国内需要は主力の紙・パルプ向けなどで依然振るわない。

剪定木も発電燃料に

南陽事業所

東ソーは山口県周南市の公共施設で発生する剪定樹木を南陽事業所（周南市）の自家発電所燃料として有効利用する。温暖化ガス（GHG）排出量削減につなげる。

東ソーとグループ会社の和泉産業、周南市が1月27日付で協定を締結した。4月1日から事業を開始する。和泉産業が周南市内の公共施設で発生する剪定樹木を破砕し、東ソー南陽事業所に輸送する。東ソーは木質バイオマス燃料であるチップを自家発電所で石炭と混焼させ、GHG排出量を削減する。剪定樹木の使用量は年間約100㌧。

クロル・アルカリ急回復

東ソー10～12月営業益196億円

東ソーのクロル・アルカリ部門の業績が急回復した。同部門の20年10～12月売上高は7～9月期比17%増の717億円、営業利益は3・4倍の196億円となった。主要製品のうちカセイソーダは需給緩和による輸出価格下落で厳しい損益が続いたが、ウレタン原料MDIと塩化ビニル（PVC、VCM）は輸出価格上昇によるスプレッド（値差）拡大で損益が改善した。

MDIはコロナ禍で低迷していた需要が夏場以降に回復した半面、9月以降は海外競合他社の設備トラブルや設備の定期修理で供給が細り需給がタイト化し、取引価格が急騰した。PVCも米国、インド、中国、東南アジアで需要が回復した半面、欧米で相次いだ生産障害で供給が細り需給がひっ迫。コンテナ不足による物流費の高騰もあって価格が上昇した。

ただ、足元はPVCの中国需要が2月11日からの旧正月休暇を控えた段階で減少傾向にあり、価格も今後下落に転じる見通し。MDIの価格は既にピークアウトし、3月以降は下落に転じる見込みだ。定修や年前半の新型コロナに伴う生産調整が影響した。出荷は1・6%減少し、6年ぶりにマイナスに転じた。

屋根上で太陽光発電

エフピコ　脱炭素化を促進

エフピコは容器リサイクルによるカーボンオフセット実現に向け、三井物産プラントシステムと自社製造・リサイクル拠点屋根上での太陽光発電で協業を開始した。関東エリアの10カ所の工場の屋根上に太陽光発電設備を設置し、発電した電力をエフピコが購入、使用するというもの。年間発電量は310万4千キロワット時で、関東リサイクル工場で発泡トレーの再生原料製造に使用する電力に相当する。その後は中部と関西の拠点にも太陽光発電設備を設置し、23年3月期には関東、中部、福山の発泡トレーリサイクル工場で使用する電力相当量の再生可能エネルギーを調達、カーボンオフセットを実現する。これでエフピコが使用済み発泡トレーを原料に生産するエコトレーのバージン製品とCO2排出量削減効果を踏まえ「エフピコカーボンオフセット宣言」を策定した。

電力購入契約の内容は三井物産プラントシステムが両工場の屋根上に太陽光発電設備を設置し、発電した電力をエフピコが購入、使用するというもの。年間発電量は310万4千キロワット時で、関東リサイクル工場で発泡トレーの再生原料製造に使用する電力に相当する。その後は中部と関西の拠点にも太陽光発電設備を設置し、23年3月期には関東、中部、福山の発泡トレーリサイクル工場で使用する電力相当量の再生可能エネルギーを調達、カーボンオフセットを実現する。これでエフピコが使用済み発泡トレーを原料に生産するエコトレーのバージン製品とCO2排出量削減効果を踏まえ「エフピコカーボンオフセット宣言」を策定した。

電力購入契約の内容は①自社エコ製品（エコトレー、エコAPET、エコOPET）の販売によるCO2排出削減量を23年3月期までに19・2万㌧（20年3月期比20%増）に増やし、生産部門で発生するCO2排出量をオフセット②さらに25年3月期までに23・7万㌧（20年3月期比プラス48%）に増やし、全社で発生するCO2排出量をオフセット――する内容。太陽光発電を推進するほか、エコAPET製品とエコOPET製品の回収原料比率を高めてCO2削減効果の増大を図る。

カセイソーダ2.3%減産20年

日本ソーダ工業会がまとめたソーダ工業薬品の20年需給実績によると、カセイソーダは生産が前年比2・3%減少し3年ぶりに400万㌧を割り込んだ。定修や年前半の新型コロナに伴う生産調整が影響した。出荷は1・6%減少し、6年ぶりにマイナスに転じた。

輸出が大幅に伸びたことで、減少幅は当初予想より小幅にとどまった。

国内出荷は約6%減、輸出は約15%増だった。国内向けは19用途のうちセロファンや水処理・廃水処理など5用途を除き前年割れ。主力の化学工業は約7%減、紙・パルプは13%減となった。輸出は2年連続で過去最高を更新した。輸出先首位は豪州で全体の約4割を占め、インド、米国、シンガポール、インドネシア、アラブ首長国連邦が続いた。

塩化物は合成塩酸が生産、出荷ともにほぼ横ばい。液体塩素、高度さらし粉、次亜塩素酸ナトリウムは生産、出荷ともに落ち込んだ。

2020年カセイソーダ出荷内訳

（単位：トン、%）

	12月	自家消費内数	前年同月比	10～12月計	自家消費内数	前年同期比	1～12月計	自家消費内数	前年比
紙・パルプ	20,871		97.2	60,759		96.9	236,877		87.4
化学繊維	5,271	690	104.5	13,542	972	88.8	58,173	8,905	94.6
染色整理	3,697		98.8	10,955		99.6	42,898		96.0
アルミナ	1,614	984	68.9	4,814	2,917	79.8	19,431	12,079	89.3
食品	7,674	99	101.2	21,999	305	101.3	77,050	1,145	96.0
石油精製	1,790		91.7	5,145		93.2	20,107		87.7
セロファン	1,272		127.5	3,173		106.6	12,645		130.4
化学工業	154,443	83,049	100.6	431,588	230,606	94.8	1,703,021	870,345	92.6
無機薬品	32,515	16,523	96.5	96,252	49,070	94.7	377,465	195,235	92.7
有機・石油化学	36,737	29,716	103.5	96,244	78,232	99.9	357,144	282,015	91.9
染料・中間物	6,066	4,164	105.9	17,340	11,587	93.4	63,766	36,850	86.1
石けん・洗剤	3,512	0	105.0	10,137		101.5	38,720	0	96.1
電解ソーダ	4,450	3,878	103.5	12,793	11,052	102.3	48,912	42,277	99.7
カプロラクラム	883	48	83.7	2,585	135	92.7	10,045	490	90.9
プラスチック	16,339	7,271	117.5	43,356	19,360	110.7	160,651	70,882	98.9
重曹	4,926	4,926	103.9	15,526	15,526	100.7	56,764	56,764	101.9
高度さらし粉	383	293	76.4	1,177	1,006	93.1	4,890	3,897	95.1
その他化学工業	48,632	16,230	95.9	136,404	45,488	86.6	584,890	182,785	90.6
非鉄金属	6,051	8	93.0	17,344	31	87.0	71,867	148	89.5
電機・電子	5,437		102.3	16,111		102.8	61,110	0	97.9
医薬	2,166		96.2	6,820		95.9	25,895	0	100.1
鉄鋼	3,976		105.5	11,575		111.5	40,630	0	102.3
ガラス	300	271	85.2	979	883	92.0	3,847	3,216	94.4
タール	41		117.1	121		100.8	496	0	96.5
農薬	799	266	41.9	4,045	2,444	85.7	18,585	11,954	99.0
電力	2,545	278	108.9	7,264	720	101.5	28,137	2,581	94.5
上下水道	3,747	246	104.9	10,959	718	105.2	40,828	2,772	95.4
水処理・廃水処理	14,886	3,688	102.8	43,430	10,706	99.5	166,559	39,309	102.3
その他	39,149	852	177.5	102,680	2,566	114.4	387,258	10,405	101.2
内需計	275,729	90,431	106.4	773,488	252,868	97.9	3,015,640	962,859	94.2
輸出	85,175		80.9	270,889		109.0	946,471		114.8
需要計	360,904	90,431	99.0	1,044,377	252,868	100.5	3,962,111	962,859	98.4

2020年のソーダ工業薬品の需給状況

（単位：トン、下段は前年比%）

		カセイソーダ	合成塩酸	液体塩素	高度さらし粉	次亜塩素酸ナトリウム
生産		3,930,368	747,858	452,587	26,852	863,415
		97.7	99.5	93.1	90.3	95.1
出荷 国内需要	自家消費	962,859	277,325	286,933	2	19,960
		93.7	98.9	94.2	100.0	77.4
	販売	2,052,781	472,029	166,174	6,312	842,489
		94.4	100.4	91.5	66.3	95.5
	計	3,015,640	749,353	453,106	6,314	862,449
		94.2	99.8	93.2	66.3	95.0
出荷 輸出		946,471	0	0	20,156	0
		114.8	－	－	99.0	－
出荷計		3,962,111	749,353	453,106	26,470	862,449
		98.4	99.8	93.2	88.5	95.0
在庫		119,613	18,535	4,056	2,019	13,204
		79.0	92.5	88.7	123.7	107.8